

Overview: アウトライン I は、昇天したキリストが天にある真の幕屋の奉仕者であることを示します。II は天の奉仕者の下で、召会の様々な面の啓示を持って召会生活を実行すべきであることを示しています。III は召会生活の実行において、実際的に必要とされる美德と経験についてです。私たちは天のキリストの務めの下にしなければ、啓示も美德も持つことはできませんので、正常な召会生活を実行することはできません。

I. 昇天したキリストは、「聖所である真の幕屋の奉仕者(ヘブル8:2)」です:

- A. キリストは、真の幕屋(天の幕屋)の奉仕者として、天を(場所を指すだけでなく、命の状態を指す)私たちの中へと供給します。
- B. 現在のキリストは、今私たちの奉仕者として天におられ、私たちに天的な命、恵み、権威、力を供給しており、私たちを支えて地上で天的な生活をさせます。それはまさに彼が地上におられた時に行なったのと同じです。
- C. 天のキリストは、幕屋の中で務めをしています。「この幕屋は、人が張ったものではなく、主が張られたものです(8:2)」:
- この幕屋、この聖なる所は、第三の天にあり、そこに天の至聖所があります。
 - キリストは、天の至聖所において私たちのために務めをしており、その至聖所は、私たちの霊と結び付いています。
 - 天におけるキリストの務めは、私たちの必要を顧みます:
①キリストは天から、分与する方法で、彼ご自身を食物として、私たちの命の供給として、私たちに供給しています。②私たちの奉仕者は私たちの必要を顧みるとき、神のエコノミーを遂行します。
- D. キリストが天の奉仕者として遂行することは何であれ、その霊として私たちに適用します:
- 私たちが必要とする供給は、キリストから来ます。彼は天におられる主であり、また私たちの内側のその霊です。
 - 今や私たちは、昇天した方のすべての機能において彼を経験します。
 - 彼は天の奉仕者として、私たちが必要とするものを、源である父なる神から私たちの霊の中へと伝達し、私たちに供給して、私たちを支えます。
- E. キリストは天の務めにおいて真の幕屋の奉仕者として、新しい遺言の遺贈、祝福をもって神の民に仕えています:
- 新しい契約の中の事実であるものは何であれ、新しい遺言における遺贈です。天の奉仕者であるキリストは、新しい遺言における遺贈を執行しています。

II. ヘブル人への手紙において、召会のさまざまな面が啓示されています:

- A. 召会は神の多くの子たちから成る生ける構成体です。彼らはキリストの復活において生み出されたキリストの多くの兄弟たちです:
- 神は私たちの神聖な御父です。私たちは彼の神聖な命から生まれた彼の神聖な子たちであり、神聖な性質を持っています。
 - 私たちはキリストの多くの兄弟たちであり、長子と同じです。彼は神であり人であり、私たちは人であり神です。
 - 召会は、二つの命と二つの性質が共に結合されミングリングされた有機体です:①召会は完全に命の事柄です。すなわち、神聖な命と、引き上げられ、復活させられた人性の命です。
- B. 召会は、キリストとの団体のパートナーです:
- 宇宙における神の活動の目標は、彼ご自身の栄光の表現を完成することです。
 - 長子は、神の定められた相続者であり、私たち多くの子たちは救われて彼の共同の相続人となっており、救いを受け継いでいるだけでなく、彼と共に万物を受け継いでいます。
 - 神の長子としてのキリストは、神の定められた相続者であり、神の多くの子たちとしての私たちは、彼の共同の相続人です。このゆえに、私たちはキリストのパートナーです。
 - キリストのパートナーとして、私たちは彼の油塗りにあずかり、彼の活動において彼と協力して、神のエコノミーの目標に、すなわち神聖な方の栄光の表現に到達します。
- C. 召会は、キリストの拡大であり、安息日の安息です:
- 個人のキリストは、神の安息日であり、召会はキリストの拡大です。召会は神の安息日の安息でもあります。
 - 召会は、神の満足と安息です。なぜなら、神は召会の中で彼ご自身の住まいを持って、彼ご自身の表現と代行を得るからです。
- D. 召会に来ることは、新しい契約に来ることであり、天の新エルサレムに来ることです:
- 新しい契約、天のエルサレム、召会は一です。
 - 新しい契約を受けることは、新エルサレムに入り、召会に来ることでです:①律法の旧契約が新契約によって置き換えられたことを示しています。②ヘブル第12章は、私たちが来ているのはシオンの山に、生ける神の都に、新しい契約の仲保者に、召会にであると言います。
- E. 召会は、神の揺り動かされない王国です:
- 私たちが受けている揺り動かされない王国は、キリストと彼の拡大です:①王国は、実は私たちの内側の王国としての主ご自身です。②召会は、命におけるキリストの増し加わりであり、王国は、行政におけるキリストの増し加わりです。
 - 私たちは召会の中で、今日、神の王国において生活しています。

III. ヘブル第13章1節から19節は、召会生活の実行のために必要とされる美德と経験について語っています:

- A. 本章は…正しい召会生活の観点から書かれました。兄弟愛や旅人をもてなすことなど、ここで述べられているほとんどすべてのことは、召会生活のためです。
- B. 私たちは、真の、堅固な召会生活のために、昨日も今日も、永遠に同じであるキリストを保持しなければならず、さまざまな異様な教えによって迷わされてはなりません。
- C. 私たちは霊の中において、天のキリストを享受すればするほど、ますます宗教の営所の外に出て、苦難を受けたイエスに従って行きます。
- D. 私たちは召会生活において変わることはないキリストを恵みとして享受し、宗教の外に出て彼に従って行くので、彼を通して賛美の霊のいけにえを神にささげるべきです:
- 私たちは召会においてキリストを通して、絶えず賛美のいけにえを神にささげるべきです。
 - 召会において、キリストは私たちの中で賛美の歌を父なる神に歌います。また私たちが召会において彼を通して父なる神を賛美すべきです。
 - 最終的に、召会において、彼と私たち、私たちが彼は、ミングリングされた霊の中で共に御父を賛美します:
①彼は、命を与える霊として、私たちの霊の中で御父を賛美し、私たちは、私たちの霊によって、彼の霊の中で御父を賛美します。
②これが、私たちが子なるキリストを通して神にささげることができる最上で最高のいけにえです。
③このことは召会の集会において大いに必要とされます。

経験①: 召会、キリストのからだを建造するために造り変えられる

神の永遠の定められた御旨は、彼の団体の表現としての一組の子たちを持つことです。まず、彼のひとり子は手順を経過して栄光の中へと入り、完全に成就されて、標準のモデル、神の長子となり、神を表現されました。キリストの昇天の時から、神はこの標準のモデル、すなわち彼の長子の大量の複製を持つと働いてこられました。歴代、これを見たクリスチャンはほとんどおらず、その結果、主は遅らされてきました。…主は回復の中で、標準のモデルを複製し、私たちの間で全力を尽くして働いて、私たちをみな長子と同じにしようとしておられます。これが成就されることの意味するものです。

成就のために、私たちは神性と、引き上げられ、復活させられた人性と、終わらせる十字架を必要とします。私たちの成就是、キリストの終わらせる十字架を含まなければなりません。なぜなら、彼のすべてを含む死は、すべての消極的なものを川の向こう側に置いて、歴史としてしまうからです。私たちはまた、内側のあらゆる部分が、彼であるすべてをもって浸透されることを必要とします。私たちの最も小さい部分でさえ、彼で浸透されなければなりません。…これが栄光化、成就、モデルである御子の複製、複写です。

召会は神の多くの子たちの構成です。召会は、神の長子の多くの兄弟たちの団体です。これが召会です。…四十年以上前、私は、召会はキリストにある真の信者たちが共に集まったグループであることを見ました。召会のこの定義は間違っています。約百五十年前、何人かの兄弟たちに、召会はれんがや石の建物ではないことが啓示されました。彼らはすべてのキリスト教国に対して、召会は物質の建物ではないことを、力強く宣言しました。それは大聖堂、礼拝堂、礼拝所ではありません。彼らは、召会は神の召された者たちの集まりであると宣言しました。キリストにある真の信者たちが集まって来る時、彼らが召会です。私たちはこの啓示から多くの助けを受け、五十年以上前に、召会は神の召された聖徒たちの集まりであると言いはじめました。私たちは前世紀のこれらの兄弟たちから受けた助けに感謝しました。その後、私たちは、召会は真の信者の集まりだけではなく、からだ、キリストのからだであることを見始めました。…あなたが羊を集めたとしても、同じように彼らは、からだになることはできません。みな知っているように、からだは命のある有機体です。それには命の組織、命の細胞、命の性質、命の形態、命の能力、命の機能が 있습니다。召会は、単なる集合よりさらに深く、さらに高く、さらに深遠なものです。

中高生編

召会は礼拝堂や集会所などの建物ではありません。新約聖書のギリシャ語、「エクレシア」は、「召された会衆」という意味です。このために中国語及び日本語回復訳新約聖書では、「エクレシア」を、従来の「教会」ではなく「召会」としています。

新約聖書の召会に関する啓示は、さらに前進して、召会は「キリストのからだ」であると啓示しています。神の目標に到達するため、召会が召された会衆であるという認識では足りません。神の目標は神の建造であり、それはキリストのからだの建造です。救われたあなたはキリストのからだの一部分です。私たちの体はさまざまな部分からできており、不必要な肢体はありません。どの肢体も体の建造のために必要なのです。同様に、キリストのからだを建造し、キリストを団体的に大きく表現するためには、召会の中のすべての兄弟姉妹が正しく機能する必要があります。自分が高中生なので、集会で神の言葉を語ったり、詩歌を大声で歌ったり、祈ったりする必要はないと決して考えないでください。実はあなたが機能すればするほど、あなたはキリストを享受し、造り変えられます。そして造り変えられれば造り変えられるほど、あなたはもつと建造のために機能することができるようになるのです。アーメン！

経験②: キリストのパートナーとなるために、苦難を経過して造り変えられる

神は宇宙で大きな活動を持っておられます。この活動の目標は、栄光の表現を完成することです。この栄光ある表現が、私たちがみな入ろうとしている目標です。私たちの視野は広げられて、神の全宇宙における活動は、ご自身の栄光ある表現を完成することであることを、見なければなりません。神の御子は神のご計画を完成するように定められました。彼は定められて、この会社を経営されます。彼は過去の永遠にこの任務に定められました。

神の長子としてのキリストが、神に定められた相続者であり、神の多くの子たちである私たちが、彼と共同の相続人であるからには、私たちは彼のパートナーです。彼と私たち、私たちと彼は、神聖な会社の中で同じ権益を分かち合う一つのパートナーシップにあります。…ハレルヤ、私たちは彼のパートナーです！ 仮に、あなたが億万長者のパートナーになったとしましょう。あなたは確かに莫大な富を持つことを保証されるでしょう。なぜなら、その億万長者が持っているものはみな、あなたのものであるからです。あなたは大会社で彼と一つです。神は宇宙で最大の会社を持っておられます。この会社の名は「キリストと召会」です。私たちはこの会社のパートナーです。私たちはこの会社に雇われたのではなく、パートナーです。神は全宇宙でただ一つの会社、「キリストと召会」を持っておられます。この会社は何百万の御使いたちを、仕える者として持っています。ユダヤ人はもはや御使いを誇るべきではありません。御使いたちは、私たちのしもべです。

在職青年編

ヘブル 3:14 まことに、初めの確信を最後まで強く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。

ローマ 8:17 そしても子供であるなら、相続人でもあります。すなわち、私たちが彼と共に栄光化されるために、彼と共に苦しむなら、私たちは神の相続人であり、またキリストと共同の相続人です。

私たちは、「キリストと召会」という宇宙で最大の会社の中で、最高責任者であるキリストのパートナーです。会社でのパートナーとは、マネージャーやディレクターではなく、共同経営者です。神のエコノミーは、あなたをキリストのパートナーとすることです。しかしあなたは救われて、すぐにパートナーとなるではありません。救われた後、造り変えられ、同形化されてはじめて、あなたはキリストのパートナーとなります。

あなたは造り変えられるため、苦難を経過する必要があります。会社の中の上司、同僚、部下は、あなたが会社の中でキリストを経験し、造り変えられるために神が主権を持ってアレンジされました。あなたは会社の中で業務遂行においてキリストを知恵、能力として経験してください。また、複雑な人間関係の中で、どのように振る舞うべきか、キリストを光、知恵、洞察力として経験してください。さらに、多くの時、サタンが背後で働いていることがありますので、召会生活の中で、からだの中で、悪魔サタンに敵対して立ち上がり、戦う必要があります。このようにして、あなたは徐々にキリストのパートナーとなるように成長していくのです。ハレルヤ！

エペソ 6:10 最後に、主の中で、また彼の力強い大能の中で力づけられなさい。

11 神のすべての武具を身に着けなさい。悪魔の策略に敵対して立つことができるためです。 12 というのは、わたしたちの格闘は血肉に敵対するものではなく、支配者たちに、権威者たちに、この暗やみの世の主権者たちに、天上にいるあの悪の霊の勢力に、敵対するものだからです。 13 こういうわけで、神のすべての武具を取りなさい。それは、あなたがたが邪悪な日にあって抵抗することができ、またすべてのことをやり抜いた後も、なお立つことができるためです。

引用聖句:

I. 昇天したキリストは、「聖所である真の幕屋の奉仕者」です:

ヘブル8:2 聖所である真の幕屋の奉仕者となっております。この幕屋は、人が張ったものではなく、主が張られたものです。

1:3 御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の明確なかたちであって、彼の力ある言葉によって、万物を維持し担っておられます。そして、罪のきよめを成し終えてから、高き所の威光ある方の右に座られました。

4:12 なぜなら、神の言は生きていて効力があり、どんなもろ刃の剣よりも鋭く、魂と霊、関節と骨髄を切り離すまでに刺し通して、心の思考と意図を識別することができるからです。

4:14 こういうわけで、私たちは、天を通過して行かれた大いなる大祭司、イエス、神の御子を持っているのですから、その告白をしっかりと保持しようではありませんか。15 私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情することのできない方ではなく、罪のないことは別にして、すべての面で私たちと同じように試みられたのです。

7:22 このようにして、イエスはさらにまさった契約の保証にもなられました。

7:26 このように、聖く、悪巧みがなく、汚れがなく、罪人とは分離しており、天より高くなられた大祭司こそ、私たちにふさわしかったのです。

8:6 しかし今やイエスは、さらに卓越した務めを得られました。それは彼が、さらにまさった約束の上に制定された、さらにまさった契約の仲保者でもあられるからです。

9:15 このゆえに、彼は新しい契約の仲保者なのです。それは、第一の契約の下での違反を贖うために、彼が死を遂げられ、召された者たちが、約束された永遠の嗣業を受けるためです。16 ところで、遺言がある場合、その遺言を作成した者の死が実証されなければなりません。17 というのは、遺言は人が死んでこそ確立するのであって、その遺言を作成した者が生きている時は、何の効力もないからです。

9:24 なぜなら、キリストは、まことのものの型である、手で造られた聖所にではなく、天そのものに入られたのであり、今や私たちのために、神の御顔の前に現れてくださったからです。

エペソ1:10 時代の満了時のエコノミー[経綸]へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとしたのです。

Iコリ15:45 …最後のアダムは、命を与える霊と成ったのです。

IIコリ3:17 そして主はその霊です。そして主の霊のあるところには、自由があります。

ローマ8:11 そして、イエスを死人の中から復活させた方の霊が、あなたがたの中に住んでいるなら、キリストを死人の中から復活させた方は、あなたがたの中に住んでいる彼の霊を通して、あなたがたの死ぬべき体にも、命を与えてくださいます。

II. ヘブル人への手紙において、召会のさまざまな面が啓示されています:

ローマ8:29 なぜなら、神はあらかじめ知っておられた者たちを、御子のかたちに同形化しようと、あらかじめ定められたからです。それは、御子が多くの兄弟たちの間で長子となるためです。

ヘブル2:10 万物がその方のために存在し、万物がその方を通して存在する方が、多くの子たちを栄光へ導き入れるのに、彼らの救いの創始者を、苦難を通して成就されるのは、彼にふさわしいことでした。11 聖別する方と、聖別されつつある者たちは、すべてひとりの方から出ているのであり、それゆえに主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされないうで、12 「私は

あなたの御名を私の兄弟たちに言い表し、召会のただ中で、私は賛美の歌をあなたに歌います」と言われるのです。

1:9 あなたは義を愛し、不法を憎まれます。それゆえに神、あなたの神は、歓喜の油を、あなたのパートナーにまさって、あなたに塗られました」と言われます。

3:14 まことに、初めの確信を最後まで堅く保っているなら、私たちはキリストのパートナーとなっているのです。

4:9 こういうわけで、ある安息日の安息が、神の民のために、まだ残されているのです。

5:5 そのように、キリストも、大祭司となる栄光をご自分で得られたのではなく、「あなたは私の子である。この日私はあなたを生んだ」と、彼に言われた方が彼に栄光を得させたのです。

12:28 こういうわけで、私たちは揺り動かされない王国を受けているのですから、恵みを持つようではありませんか。この恵みによって、私たちが敬虔と畏れをもって、神に喜ばれる奉仕をするためです。

Iペテ1:3 ほむべきかな、私たちの主イエス・キリストの神また父。この方はその大いなるあわれみにより、イエス・キリストの死人の中からの復活を通して私たちに再生し、生ける望みを持たせ、

ヨハネ20:17 イエスは彼女に言われた、「私に触ってはいけない。私はまだ父へ昇っていないのだから。ただ、私の兄弟たちの所へ行つて、『私は私の父、またあなたがたの父、私の神、またあなたがたの神へ昇る』と彼らに言いなさい」。

エペソ1:5 みこころの大いなる喜びにしたがい、イエス・キリストを通して、私たちが子たる身分へと、彼ご自身へあらかじめ定められました。

ガラ3:26 あなたがたはみな、キリスト・イエスにある信仰を通して、神の子たちであるのです。

ヨハネ1:12 しかし、すべて彼を受け入れた者、すなわち、御名の中へと信じる者に、彼は神の子供たちとなる権威を与えられた。13 これらの人は血からではなく、肉の意志からでもなく、人の意志からでもなく、神から生まれたのである。

III. ヘブル第13章1節から19節は、召会生活の実行のために必要とされる美德と経験について語っています:

ヘブル13:8 イエス・キリストは昨日も今日も、永遠に同じです。9 さまざまな異様な教えによって、迷わされてはなりません。というのは、心がいけにえの食物によってではなく、恵みによって強固にされるのは良いことだからです。食物によって歩いた者たちは、益を受けませんでした。

13 ですから、私たちは彼のそしりを担い、營所の外に出て、彼へと行こうではありませんか。

15 ですから、彼を通して、絶えず賛美のいけにえ、すなわち、御名を言い表す唇の実を、神にささげようではありませんか。16 善を行なうことと、他の人たちと分け合うことを忘れてはなりません。なぜなら、そのようないけにえを、神は喜ばれるからです。17 あなたがたを導く人たちに従い、彼らに服しなさい。なぜなら、彼らは弁明する者として、あなたがたの魂を見守っているからです。それは、彼らがこれをうめきをもって行なうのではなく、喜びをもって行なうためです。そうでないと、これはあなたがたにとって益にはならないでしょう。18 私たちのために祈ってください。というのは、私たちは正しい良心を持っていると確信し、すべての事柄で誉れがあるように振る舞うことを願っているからです。

ヨハネ 13 章のマイルストーン: 命が愛の中で洗い、交わりを維持する

1. 主ご自身による洗い(1-11 節)

1 過越の祭りの前、イエスは、この世を去って父へと至る時が来たことを知り、世にいるご自分の者たちを愛し、極みまで愛された。2 晩餐の時、悪魔はすでに、シモンの子、イスカリオテのユダの心に、イエスを裏切ろうとする思いを入れていた。3 イエスは、父がすべてをご自分の手に与えられたこと、またご自分が神から来て、神に行こうとしていることを知って、4 晩餐の席から立ち上がり、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って、腰に巻かれた。5 それから、たらいに水を注ぎ入れ、弟子たちの足を洗い、腰に巻いた手ぬぐいでふき始められた。6 彼はシモン・ペテロの所に来られた。ペテロは彼に言った、「主よ、あなたが私の足を洗われるのですか？」7 イエスは彼に答えて言われた、「私のしていることは、今あなたにはわからないが、後でわかるようになる」。8 ペテロは彼に、「私の足を、いつまでも決して洗わないでください」と言った。イエスは彼に答えられた、「私があなたを洗わないなら、あなたは私と何の関係もなくなる」。9 シモン・ペテロは彼に言った、「主よ、私の足だけでなく、手も頭も」。10 イエスは彼に言われた、「水浴した者は、足のほか洗う必要はない。全身が清いからである。あなたがたは清いのであるが、みな清いのではない」。11 イエスはご自分を裏切る者を知っておられた。それで、「みな清いのではない」と言われたのである。

2. 信者たち相互の洗い(12-17 節)

12 イエスは彼らの足を洗い終わると、上着を着て、再び食卓に着き、彼らに言われた、「私があなたがたに行なったことがわかるか？ 13 あなたがたは私を、先生とも主とも呼んでいる。そう言うのは正しい。私はそうである。14 それで、主であり先生である私が、あなたがたの足を洗ったのだから、あなたがたも互いに足を洗い合うべきである。15 私があなたがたに行なったように、あなたがたも行なうように、私はあなたがたに模範を与えたのである。16 まことに、まことに、私はあなたがたに言う。奴隷は主人にまさることはなく、遣わされる者は遣わす者より大いなるものではない。17 これらの事を知って、それを行なうなら、あなたがたは幸いである。

3. 互いに愛し合う(34-35 節)

34 私は新しい戒めをあなたがたに与える。互いに愛し合いなさい。私があなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。35 あなたがたが互いに愛し合っているなら、これによって、すべての人は、あなたがたが私の弟子であることを知るようになる。

4 節の上着は、主によって表現された主の美德と特質を象徴します。ですから、彼が上着を脱ぐとは、彼によって表現された彼であるものを脱ぎ去ることを象徴します。腰に巻くとは、へりくだりをもって縛られ、制限されることを象徴します。

5 節の水は聖霊、言葉、命を象徴します。第 1 章から第 12 章で、命が来て、再生された者たちで構成された召会を生み出しました。再生された者たちは、彼らの霊の中では、神の中に、また天にいますが、彼らの体の中では、まだ肉の中に生きており、地上を歩んでいます。彼らは地のものとの接触を通して、しばしば汚れます。これは主との交わり、また彼ら相互の交わりを阻害します。ですから、聖霊と言葉と命をもって、洗う必要があるのです。こうして汚れを洗い去ることによって、主との交わり、また互いの交わりが維持されます。それは、血によって罪を洗い去ることではありません。ですから第 12 章の後、この章でそのようなしるしが必要であるのです。この福音書はしるしの書ですから、この章に記録されているものも、やはり霊的意義を持つしるしと考えられるべきです。足を洗うことは、単に物理的な意味ではなく、霊的な意味で取られるべきです。

古代のユダヤ人はサンダルをはきました。それに当時の道路はほこりが多かったので、彼らの足はすぐに汚れました。もし彼らが宴席に来て、食卓に着き、足を伸ばしたのであれば、汚れと不快なおいで、確かに交わりは阻害されたでしょう。ですから、その宴席が喜ばしくなるためには、足を洗う必要がありました。主は彼の弟子たちの足を洗って、彼らを極みまで愛していることを示し(1 節)、また同じことを互いに愛の中で行なうよう命じられました(14、34 節)。今日、この世は汚れており、私たちは、容易に汚染されます。私たちは、主との交わり、また相互の喜ばしい交わりを維持するために、霊的な足洗いを必要とします。それは、洗う聖霊、洗う言葉、洗う命をもって、主によって彼の愛の中で、また互いに愛の中で行なわれます。

私たちは皆世の中に生きているので、世の中の往来によって自然に汚されます。例えばインターネットによる検索は非常に便利で、必要な情報を容易に入手することが出来ます。しかし、検索の情報のすぐそばに不健全なリンクが掲載されていたりします。電車の中の広告や駅の中の大きなディスプレイの中には不健全なものや不道徳なものも含まれています。また飲み屋街の周りには酔っ払いの人がたくさんいます。酒に酔うことは理性を低下させるので、飲み過ぎると多くの場合淫行をもたらします。人々は世の中で、罪を犯さなくても、容易に罪深いものに接触し、汚されます。

就職すると、社内の出世競争のゆえの嫉妬、怒り、妬みなどに巻き込まれること、周りの人が自分の地位を守るために嘘を言ったりすることなどに触れます。また、ウィンドウ・ショッピングで最先端の流行を見て回ります。これらは必ずしも罪深いわけではないのですが、それらの中に居続けると、心が曇っていき疲れます。これらも世の往来による汚れを示します。

ヨハネ 13 章の足を洗うことは、世の往来による汚れを清め、互いの交わりを妨げるものを取り除きます。主に感謝します。ここでの洗う水は聖霊、言葉、命を示しますので、あなたは必ず聖書を読み、それを祈り読みし、祈って下さい。あなたは毎日シャワーを浴びるように、毎日聖霊、言葉、命の洗いが必要です。

あなたは自分が罪を犯した場合、その罪を告白して、イエスの血によって汚れた良心を清めていただくべきです。しかしヨハネ 13 章の命の洗いは、イエスの血による洗いとは異なります。一日生活していると世の中の往来の中で、特別罪を犯さなくても、汚れてきて臭くなります。この悪臭は、召会生活の中の命の交わりを妨げます。

実際的には、以下の事を少しずつ実行して下さい。

1. 毎朝復興: 毎朝 10 分前後の時間を使って主の御言葉を読み、祈り読み、祈って下さい。
2. 毎日ドリップ・イリゲーション(点滴灌漑)の祈りを実行して下さい。LINE など祈りのグループに入り、1 分間の祈りを送り、他のメンバーの 1 分間の祈りを聞いてください。このようにして互いに足を洗い、互いに愛し合います。
3. 毎週 BSG などの活動に参加して、自分の感覚や享受したことを発表して下さい。

Hymnal (#814)

- | | |
|---|--|
| 1. "Man shall not live by bread alone,
But by each word which doth proceed
From God's own mouth"; these we must eat
And let them be our life indeed. | 5. Thus, to receive Thy Word is not
To read it only with our eyes
And understand it in our mind,
But 'tis the spirit's exercise. |
| 6. Thy Word in spirit we must eat
And to our inmost part receive;
'Tis by our spirit's exercise
To pray with what our minds perceive. | 9. Lord, teach us how to exercise
Our spirit when Thy Word we read;
Then will our spirit nourished be
As thus upon Thyself we feed. |